

奈良県白バラ大会 大会決議

民主政治は、主権者としての国民の政治参加によって支えられ、創られていくものです。国民一人ひとりが、有権者としての自覚と熟成した政治意識を身につけ、積極的に投票に参加することが、民主政治の発展のかぎとなります。

昨年4月に統一地方選挙として行われた知事選挙の投票率は51%と前回より低く、近年の各種選挙における低投票率の傾向が続いているものと言わざるを得ません。特に、未来を担う若い世代の投票率が低いことは誠に憂慮すべきことです。

また、選挙違反も依然として絶えないことから、わたくしたち国民の政治や選挙に対する意識改革がなおも課題として残されています。

このような中、今年夏の参議院議員通常選挙から、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることが見込まれ、選挙を取り巻く環境は大きく変化することとなります。

そこで、わたくしたちは、本大会が国民参政の意義と政治参加の基本的機会である選挙の重要性を再確認するとともに、公正で明るい選挙の推進に対する意識を改めて高める契機にふさわしいと考え、次のように呼びかけます。

- 1 候補者は、選挙のルールを守り、公正な選挙運動を行うとともに、日頃から国民の信頼に応えるべく、不断の努力を心がけること。
- 2 有権者は、自らの一票が今後の政治のあり方を決める重大なものであることを深く認識し、一票の権利を大切に行使すること。
- 3 わたくしたち県民は、「贈らない、求めない、受け取らない」という三ない運動をさらに推進し、明るくきれいな選挙の実現に向けて、より一層の努力をすること。

以上、決議します。

平成28年 3月 1日

奈良県白バラ大会参加者一同